

令和4年3月2日  
秋田北高等学校

令和3年度第2回学校評議員会兼学校関係者評価会議が2月21日(月)に開催されました。  
学校評議員、むつみ会会長・副会長の皆様から、授業参観の感想や学校評価アンケート等についての御意見をいただきましたので、御紹介いたします。

- ・ICTを活用した授業を多く見ることができた。ICTやインターネットの画面を見ると、つい良かったような気持ちになるが、実は理解していないことがある。繰り返しが大切である。学校評価については、最上の評価はなかなかつけないものだが、A評価が増えていることは素晴らしい。
- ・コロナ禍、よく授業が行われている。ICTについては知識が定着しているか不安ではある。興味、関心等の導入には向いている。2～3年後が楽しみである。  
文武両道の活躍は素晴らしい。入試の倍率を見ても、受験生の期待を背負っている。
- ・電子黒板の授業が7月よりも増えた。大学ではオンラインの授業が多く、資料作成は工夫しているが、きれいな資料を使うほど、見ただけで安心して、ノートをとらなくなった。チャット機能等を活用し学生を授業に参加させている。ある程度作業をする時間は必要である。学校評価の職員アンケート10、いじめ防止や不登校についての評価が下がったのが気になる。
- ・子供たちに活気があり安心した。  
コロナ禍3年目になり、保護者は学校に対し要望が増えていくのではないか。学校と保護者のコミュニケーションはとれている。一方、部活動への要望は活躍に伴って増えているし、多様化している。  
進路に関して非常によく頑張っていてうれしい。入試の倍率も北高関係者としてうれしい。
- ・120周年記念事業の成功、尽力ありがとうございます。  
入試の倍率はこれまで積み上げた努力が受験生や県民に伝わった結果だと思う。
- ・ICTはよく活用されているが、職員の準備が大変そうだ。  
部活動はすごい成果を上げている。  
体育の授業を見たが、マスク姿が痛々しい。
- ・マスク姿ではあったが、一生懸命取り組んでいた。  
学校評価の総合点は上がっている。令和元年はコロナ禍前の評価である。フラストレーションはたまっているが、学校の対応に理解を示している結果ではないか。春以降収束し、のびのび過ごしてほしい。  
120周年記念事業、部活動素晴らしい結果であった。